第三回岩室村青年県外研修に参加して

――千葉県、干潟町――

第三回岩室村青年県外研修派遣団員六名は、千葉県干潟町での研修を終えて、七月十二日、全員元気に帰村いたしました。

干潟町での研修は、地元青年宅に分宿し、生活を共にしながらの体験研修形態をとり、昼は、農作業を手伝い、気候、風土の相違からくる、人間性、慣習、生活感を知り、夜は「青年団体活動」……、その望ましいあり方について、意見交歓を行ってきたもので、この研修で得た、貴重な体験と、団体活動についての各自の考えは、近くレポートにまとめ、研修報告書として、発刊されることになっております。

これで、岩室村が第一回以来派遣した青年は、全部で十八名になったわけで、この研修の成果がいよいよ実践の場で発揮されつつあるようで、更に充実した活動のために、一層の活躍が期待されます。

友情のすばらしさを大切にしたい

和納四区　田中校一

村長はじめ関係各位よりの激励を受け、出発した県外研修、わずか四泊五日という期間ではありましたがここ数年来の私の生活のなかで、これほど充実した時はなかったように思われます。

古くより「干潟八万石」と呼ばれ千葉県における大穀倉地帯である干潟町と青年、米どころ蒲原平野における岩室村と青年……、そこには農村青年としての連帯感があり、協調性が育まれていた。

都市近郊としての干潟、純農村地帯である岩室……と、環境の相違からくる異和感もあった。

そんな雑多な感情のなかでも寝食を共にし、議論をかわしあったその瞬間から干潟町の青年との友情が生れ、同時に岩室村青年同志の友情もうまれていた。

一人一人の感想は違っても、見知らぬ土地で知り合った友情のすばらしさだけは、みんなの共通した喜びであったと思います。

県外研修も今年で三年目であると聞きます。

昨年、一昨年と参加された先輩方をはじめ、今後とも本研修が長く続き、少しでも多くの仲間が増え、青年同志の「和」が結ばれていく事を期待していきたいと思います。

最後になりましたが、研修の運営に際し、陰に陽にお力添え下さった方々のご苦労とご配慮に対し心より感謝いたします。

(写真右から)
成田　稔
山田信幸
池田義和
永塚農夫
大岩　稔
石田一　稔
田中校　一
添主　事

青年らしく進んで物事に対処しよう

富岡　永塚　農夫

私は、千葉県香取郡、干潟町で七月八日から十二日の四泊五日の日程で青年団体活動の現状を視察してきました。

現地研修で感じたことは干潟町の青年団体活動は、一般の人たちにも親しみのある、町民一人一人から頼られているようなそんな存在であるとみた。

婦人会とのつながり、公民館関係など、青年団体と一緒になって物事に対処し問題解決にあたっているように思えた。

自分から進んで物事に対処する積極性、団長のかけ声で右に左に実によく動く団員、チームワークのよさは、抜ぐんである。

干潟町の青年たちをみて私は感じました。青年ならば物事に進んで対処する意気ごみが大切であるということを……。

岩室村をより良くするために我々青年にかけられる期待は大きい。その期待にこたえるためにも、より多くの仲間とともに、岩室村の発展に努力する態度が今こそ必要であると考えます。

「青年」、それは岩室村の命でないでしょうか。

本音をいいあえる青年になろう

西長島　池田　義和

千葉県干潟町を中心として実施された。第三回県外研修を無事に終えて、今はホッとしているところです。研修に参加してよかったという実感が帰村して、日がたつにつれて湧いてきています。

広く世間にとび出して、見聞を広め、産業、文化、青年団体活動等の視察を通しての現地青年とのふれあいをもち、外から、ふるさとを、そして、自分をみつめる機会をもてたことは、今後の私の生き方の中になんらかの形で残っていくと思います。

研修前にもっていた、チームワークはうまくいくか、気候、風土、生活環境の違いにうまくなじんでいけるかという不安は、現地の青年宅に分宿して、一夜明けたらふっとんでいました。今まで知らなかった人と生活を共にし、仲良くなれたということだけでもよかったと思います。

学生時代はいわゆる、横の関係だけでしたが、社会生活を送りはじめて、あらためて、縦の関係の必要性、重要性を認識していたので、今回の研修で地元の先輩とも仲良くなれたのでよかったと思っています。

今回の研修で得た経験を生かし、日常生活に実践しこの岩室村のために少しでも役立ちたいと思っています。

これで研修生は、十八名となったわけですが、今後もこのすばらしい研修を永年にわたって存続されていくことを願っております。

長生橋通行制限のお知らせ

長岡市の長生橋（信濃川架橋）が維持管理上、通行制限が行なわれています。

◇制限内容
大型貨物自動車等の通行止め

◇制限期日
当分の間

◇制限時間
昼夜間（終日）

・八月十三日（水）午後
・八月十五日（金）
・八月十六日（土）

役場業務を休ませていただきます

この経験を村のために自分のために生かしたい

白鳥　成田　稔

第三回青年県外研修派遣団員に選ばれ、四泊五日間の研修を終えた今、その内容のすばらしさにあらためて感激しております。

農家への分宿は、家族一人一人と話し合い、共に仕事をして、岩室村とは違った生活内容、考え方、そして共通する面など知ることができ、貴重な経験でした。また青年とも心から話し合うことができ、団体活動、農業経営など多くのテーマを私に与えてくれました。

青年団は活動的で、岩室村とは比較にならないほどであり、個人の意見を尊重し、全員が積極的で、団体活動の本来の姿をそこにみたような気がしました。

岩室村の青年も、こうありたい、もちろん私も含めての反省です。

自分をもう一度、ふりかえり、今後の生き方を決めに4Hクラブを自分のために、また、岩室村のために発展させていく決意です。

最後に、この研修を計画実行して下さった皆様に対し、深く感謝し、この研修が長く続く事を祈ります。

研修の成果を実践の場で発揮したい

原　大岩　稔

私は、学校の卒業間近になって、「卒業後、どうやって仲間を、友をつくったらいいのか、俺の住む岩室村には、農業一本で生活している友達がほとんどいない」ということについて、悩み友と語り合ったことをまるで昨日の事のように思い出します。そして、卒業を迎え、社会人となり、既でに三ケ月をすぎた頃、千葉県への研修の話しを聞き、この機会に多くの友達をつくり、県外の青年団体活動をこの目で見てやろうと、何のためらいもなく応募いたしました。

研修前に行われた事前研修で、村の青年団体活動の現状と問題点について、先輩方と意見を混じえ、この研修の目的を確認し、はやる気持をおさえながら、千葉県干潟町へと旅立ちました。

この研修で特によかったと思うことは、今までの研修とちがい、分宿という形をとおして、地元青年と寝食を共にできたことが、相互の意見交換をやりやすくしました。お互いの心のふれあい、友達意識を形成する面で、より大きな成果をあげることができました。

たしかに、干潟町の青年の団体活動は活発で、その内容も実にまとまりのあるものでした。

これだけ活動できる裏には、干潟町の町長さんをはじめ、教育関係者の援助とその期待に応えようとする青年自身の気構があってこそだと思っております。

こんな面をみるとともうらやましくも思い私たち自身もあらためることが多くあるような気がいたします。

私がこの研修で得たことは、あまりにも多くてとても語りきれません。けれども今後、なんらかの形で、この研修の成果を村の青年団体活動を通して、みなさんに知ってもらえるよう努力し、団体活動をより活発化するために、日々邁進する決意です。

仲間意識を更に広めたい

西長島　山縣　信幸

今回の県外研修に参加して、感じたことは、有意義で楽しい五日間でした。

研修に行って楽しかったなんて言うと、主催者側に叱られるかもしれませんが正直いって、楽しい研修でした。お世話になった干潟町の町長さんをはじめ、教育委員会の諸先生方は、心よく、私たちを迎えて下さいました。

町の青年団員とは、心ゆくまで、青年の団体活動やお互いの農業のことについて、真剣に話し合いました。

話しの内容がわからない時など気がねなく聞けることができ、言うならば、腹をわっての話し合いでした。そして、研修生六名の中で、私が一番若かったのですが、チームワークがとれていて、同じ研修目的を持った者だけに、一つにまとまって、年令の相違なく気軽に何でも話しすることができました。

この研修によって、自分の目で見、耳で聞いた、団体活動の利点を、今後の岩室村の4Hクラブ、青年団等の活動に発揮していきたいと思います。

今年から二ケ年計画で

農業共済水稲収量調査を実施

皆さんからお引受けしている水稲共済は、一筆ごとに基準収穫量が定められております。これは過去の被害を調査し、通年収穫しうる平均的な収穫量です。

ところが、ここ数年の農業技術の進歩や、耕地の基盤整備等により栽培形態もかわり土地の生産力に変化が生じてきております。

そこで県下一斉に適正な基準収穫量の設定に、基礎資料の調査を二ケ年計画で実施することになりました。

岩室村では、今年から調査の作業に入っております小字、または類似小字ごとにまとめ、一階層一〇〇へクタール単位程度に分けられ、いくつかの代表的な耕地を選定して、検見、刈取調査を行ないます。

村全体として、刈取実測調査は百二十三ケ所の予定です。このような方法で二ケ年計画で収量調を行ないますのでご協力をお願いします。

五年ごと国と郷土をみなおす日

50・10・1　国勢調査

警察官募集

昭和五十年度の新潟県男子警察官の採用試験が行なわれます。

一、受付期間
昭和五十年八月十八日から昭和五十年九月二十七日まで

二、受験資格
昭和二十三年四月二日から昭和三十三年四月一日までに生まれた男子で、高等学校卒業程度の学力があれば学歴は問いません。

学校教育法による大学（短期大学を除く）を卒業した者、昭和五十一年三月三十一日までに卒業見込の者は受験できません。

三、試験日
一次試験
昭和五十年十月五日

二次試験
十一月中旬の予定です。

四、試験地
新潟市、長岡市、上越市、村上市、佐和田町

五、受験手続
手続きについては、巻警察署または和納、岩室両駐在所にお問いあわせください。

毎月十日は、住民相談、行政相談日です。お気軽においでください。